

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.8.30

No. 38



一次試験で合格を目指そう!

就職希望者は、応募書類を提出してよいよ本番に向けて最後の詰めの時を迎えています。皆さんの様子を見てみると書類を出せば後は受かったような気持ちになっているかに見受けられます。しかし今年も現実はそんなに甘くありません。昨年より求人数は若干多くなっていますが、一次試験で三～四割程度の生徒が不合格ということも有り得るように思います。この現実の厳しさにもっと目を向け、本気になりその対策をして欲しいものです。

最近急激に円高と株安が進んでいます。これまで昨年に比べやや求人数が増えていますが、この円高により日本の製造業は相当のダメージを受けているはずですが、せっかく盛り上がりつつあるかに見えた日本の経済も秋口以降再び冷え込まないとも限りません。もしそうになると、一次試験が終わりその後企業の求人が途絶える可能性も出てくるように思われます。つまり、一次で失敗した人が次の会社を探そうとしても求人がなくなるかもしれません。今後の円高の進行如何によっては、3月までにはさらに経済が悪化する可能性があります。その意味でも可能ならば何と少しでも一次試験で一人でも多くが合格出来るように、危機意識を持って、今出来ることをしっかり頑張りたいものです。当日までに何の準備もせずに、文字通りの“実力”で試験に臨むようなことだけは避けよう！。

NHKスペシャル「灼熱アジア」

第1回 タイ “脱日入亜”日本企業の試練 を見て



8月22日(日)よりNHKスペシャルで頭書の番組が始まりました。今ASEAN諸国は、中国、韓国、インド等とFTAを結び、関税のない巨大経済圏へと変貌しようとしています。ASEANの中でも最大の製造業基地であるタイを取り上げて番組が構成されました。タイには、日本をはじめとして、中国、インドなどの各国企業がなだれ込み、部品生産、組み立て、物流など、あらゆる分野でこれまでの秩序・ルールをぶち壊すような“仁義なき闘い”が繰り広げられています。日本勢も大田区の町工場群など世界に冠たる技術力を誇る工作機械や金型企業などが生産の根幹を次々と移転。ところが主客はすでに逆転し、かつてのアジア進出とはすっかり様変わりをしています。もはやタイにおいて技術立国日本の圧倒的な優位性は崩れて、日本ではもはや出来ないようなはるかに高度な技術が日本の技術者の指導のもとに根付つつあったり、またタイの企業が日本の先端企業を買収し、日本の技術をどんどん吸収しているといった場面も放映されていました。日本がASEANで、生き残るすべは、生産ネットワークの一員としていかに優秀な歯車になるのかということしかない。これからのアジアとの関係を暗示するような日本企業の苦闘に密着した良い番組でした。

急速に進んでいくグローバル経済の中で、日本の企業や日本が今後どう生き残りを図ったらいいのか、本当に難しい時代になるのだということを改めて感じました。同時に、もはやこれまで蓄積した技術にあぐらをかいていられる時代ではなくなり、私達日本人が本気になり今後の生き残りの道を模索していかなくてはならないことを強く感じさせられました。